

## 令和4年度高知県学力定着状況調査の公表に係る県教育長コメント

令和5年2月17日

高知県学力定着状況調査及び質問調査は、その結果から明らかとなった児童生徒一人一人の学力についての課題の改善状況を把握し、残る課題に適切に対応して学力を確実に補完することを大きな目的として、小学校4・5年生及び中学校1・2年生を対象に実施しています。本年度は、学力の状況を客観的に評価するために目標値を設定して、その結果について分析を行いました。

教科に関する調査結果からみると、小学校の国語では、4・5年生ともに目標値を超える結果となっています。算数においても、5年生では目標値を超え、標準的な学力の定着が図られているものと評価しています。しかしながら、5年生の理科においては目標値を4ポイント下回り、特に観察・実験に関する知識・技能の定着に課題がみられています。

中学校についてみますと、国語は、1・2年生ともに目標値を上回っていますが、その他の教科は下回る結果となっております。特に、社会と外国語では目標値を大きく下回る結果（-3.7ポイント~-7.4ポイント）となっており、課題があると考えます。基本的な内容についての理解・定着が十分に図られていないことが見てとれます。獲得した知識・技能を活用して課題解決を行っていくような学習をもっと仕組むことが必要です。ただ、これまで課題が大きかった数学については、1年生において目標値に近い結果を残すことができおり、また、本年度の全国学力・学習状況調査で課題となっていた「素因数分解」などの問題において、目標値を上回る結果となるなど、改善が進んできている状況にあります。

質問調査においては、「平日のテレビや動画の視聴時間、インターネットやゲームの使用時間」を問う項目では、「2時間くらい」以上と回答した児童生徒の割合が、令和3年度よりも増加しています。生活習慣の乱れとともに、家庭学習習慣の定着にも課題がみられています。

授業中におけるタブレットなどのICT機器の活用については、学年が上がるにつれて授業実践が進んできています。しかしながら、タブレットを学習の道具として常時活用することはまだ十分ではなく、各校での取組の研究・推進が必要です。

県教育委員会としましては、今回の結果を受け、教科ごとの結果分析と今後の授業改善に向けた解説動画を作成しオンデマンド配信をします。特に、課題の大きかった社会と英語につきましては、担当教員向けの授業アイデア例を早急に作成し、配信していくこととしております。また、各市町村教育委員会や学校の改善対策についての相談等にも適宜対応していくこととしています。

さらに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するための、「授業づくり講座」を拡充するとともに、中学校の学力対策として、教科ごとの研究協議会や指導主事等の学校支援訪問を継続し、授業改善を進めてまいります。

市町村教育委員会や学校におかれましても、今回の調査結果から得られました市町村及び各学校の成果や課題を明らかにして、一人一人の児童生徒への学力補完を確実に行き、今後の学習指導の改善に役立てていただきたいと思います。

高知県教育長 長岡 幹泰